

2014 年度の主な事業報告

スポーツ振興くじ (toto) 助成事業は下記の通りです。

■ 第 15 回キンボールスポーツジャパンオープン・フレンドリーカップ

9月 20 日 (土)、21 日 (日) に北海道札幌市・北海道立総合体育センターにおいてフレンドリーカップを開催しました。

北海道は比較的早い時期に白老町スポーツ推進委員の方が中心になって道連盟を設立しましたが、その広大な土地ゆえ講習会の時間よりも移動に非常に時間がかかるという不利な条件がありました。しかしながら、地道な普及活動によって愛好者を増やし、ついにジャパンオープンを開催することができました。北海道はもとより沖縄からも参加があり計 71 チームで熱戦を繰り広げました。また、昼休みに行われた日本代表レベルの選手によるデモンストレーションには小学生たちの歓声があがり、普段目にするとのないプレーに興奮した様子でした。



■ 指導者講習会 2014

2014 年 4 月から 2015 年 3 月にかけて全国各地で 11 回の指導者及びレフリーの講習会を開催しました。新規リー

他の主な事業・取り組みは下記の通りです。

■ アジアキンボールスポーツ連盟設立

9月 2 日 (火) に中国の延辯大学でアジアキンボールスポーツ連盟設立準備会議が開かれました。出席者は中国と韓国、日本のキンボールスポーツ関係者。日本からは高見彰理事長他 2 名が出席し、各国の普及状況や現状の報告及びアジア連盟設立に向けての話し合いが行われました。その結果、情報の共有や人の交流を通してアジアのキンボールスポーツの発展に寄与する目的でアジア連盟を設立することが決定しました。

初代会長は、経験実績を考慮し日本からということになり、日本に戻って検討した



結果、当連盟の理事長高見彰が就任することが満場一致で決定しました。また、事務局は日本連盟総務委員会内に置くこととなりました。

アジア連盟のミッションの一つにアジアカップの開催があります。2 年毎に開催されるワールドカップが開催されない年にアジアカップを開催することに決定。第 1 回大会は日本で開催します。なお、準備会議の直前にシンガポール連盟が設立され、アジア連盟に加盟することが決定しています。

■ 第 15 回キンボールスポーツジャパンオープン・チャンピオンズカップ

12 月 6 日 (土) に兵庫県グリーンアリーナ神戸において開催されたチャンピオンズカップには男子 32 チーム、女子 26

ダーやマスター、C 級・B 級レフリーを生み出すだけでなく、すでに資格を持っている方が対象のフォローアップ講習会への参加も多く、実践を通して得た知識や技術を地元のプレイヤーや指導者に還元してくれることと思います。

■ 世界を学ぶ 2014

8 月 16 日 (土) に石川県金沢中央市民体育館において、プレーヤーやコーチ、レフリーが「世界を体感できる」講習会を開催しました。講師は常にワールドカップでレフリーを務めてきた、



Dominic Tamburini 氏 (カナダ) と Armel Pineau 氏 (フランス)。ルールブックにはないレフリーをする上での準備から試合運び、レフリー目線での反則判断基準、フランスやカナダでの練習方法の紹介など、どの参加者にも満足のいく内容の濃いものでした。

翌 17 日 (日) には石川県白山市で開催された第 2 回石川県キンボールスポーツ連盟会長杯で講師 2 人にレフリーの実技チェックを行ってもらいました。全員高得点で日本のレフリーの質の高さが実証されました。

チームが参加。ほとんどのプレーヤーが大学生や 20 代の社会人でしたが、中には中学生や高校生もあり、今大会での経験が今後の練習に活かされることと思います。初出場の三重県鈴鹿市の GENUINE は一人ひとりのプレーが輝いており、ワールドカップの代表候補選手に追加召集されました。今後の活躍が楽しみであり、学んだことを地元に還元してくれるこことでしょう。

■ 日本代表候補チーム強化合宿

2014 年 10 月より日本代表候補チームの強化合宿をほぼ月に 1 回のペースで行いました。プレーヤーはもちろん総監督、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ、トレーナーが集結し実践及びミーティングを行い、チームワークを培うとともに勝つための戦略、技術指導が行われました。また、選手にはトレーニングメニューが渡され、日々ワールドカップを意識した身体づくりを行っています。

■ 運営体制

2014 年度より普及、強化、基盤整備を柱とした新しい運営体制になりました。総会や理事会での決定事項を実施するための具体案を運営事務局会議で検討、決定し、専門委員会や特別委員会がその決定事項の業務、任務に当たることとなりました。

専門委員会には事業委員会、競技委員会、総務委員会があり、各委員会の下には目的に応じたグループがあります。メンバーは全国各地から最前線で指導にあたっている人を登用し、新たな意見やアイデアを活かしながら各自の事項を進めています。2015 年度もこの体制で運営を行っていきます。